

令和7年度

個別避難計画作成業務委託事業に 関する説明会

倉敷市地域防災推進課

本日の内容

- 1 個別避難計画とは
- 2 倉敷市の個別避難計画作成への取り組み
- 3 個別避難計画作成業務委託について

1 個別避難計画とは

個別避難計画とは、高齢者や障がい者など、災害時に一人では避難することが困難な方(避難行動要支援者)について、「いつ」「どこへ」「誰(避難支援等実施者:通称;避難サポーター)と一緒に」「どうやって」避難するのかを、あらかじめ具体的に決めておく計画のこと。

1 実施主体 市町村(努力義務)[計画作成の主体は当事者本人及び家族と地域]

2 計画に定める内容

(1)避難行動要支援者	(2)避難サポーター	(3)避難先
・氏名、生年月日、性別 ・住所(又は居所)、連絡先 ・支援を必要とする理由	・氏名(又は名称) ・住所(又は居所) ・連絡先	・避難施設、避難場所 ・避難路(地図は任意)

3 策定期間 おおむね5年以内(令和3年度から令和7年度)

4 本人同意 計画作成については、避難行動要支援者の同意が必要
※本人や代理人の理解と同意なくしては、計画をつくることはできません

1 個別避難計画とは

倉敷市における避難行動要支援者

●要配慮者のうち、**自力または家族の力を借りるだけでは安全な場所への避難が困難な方**で、次のいずれかの要件に該当する方。

- ・介護保険の要介護3以上の認定を受けている方
- ・身体障害者手帳1・2級第1種(心臓・じん臓のみ該当する方を除く)を所持している方
- ・療育手帳A又はAと同程度の手帳を所持している方
- ・精神障害者保健福祉手帳1級を所持している方
- ・特定医療費(指定難病)受給者証又は特定疾患医療受給者証の交付を受けている方

⇒約2,900人

※避難行動要支援者数等は、令和7年3月18日現在の集計数

支援を必要とする理由	人数(重複有)
要介護認定	1,357人
身体障がい者手帳	995人
療育手帳	222人
精神障がい者保健福祉手帳	57人
指定難病等	532人

年齢区分	人数
19才以下	94人
20～64才	554人
65～74才(前期高齢者)	389人
75才以上(後期高齢者)	1,810人

2 倉敷市の取り組みについて

●避難行動要支援者への戸別訪問による計画作成支援

令和6年8月8日に南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表されたことを受け、8月14日及び15日、津波浸水想定区域に居住する避難行動要支援者名簿に登録されている方を対象とする戸別訪問を実施しました。

災害への備えについての普及啓発と個別避難計画の作成支援を行い、8月22日以降は対象を市内全域に広げ、令和7年3月末までに、1,829名の個別避難計画の作成ができました。

- ・津波想定区域内:市職員106名/日(2名1組53班)体制で訪問
- ・市内全域:市職員100名/日(2名1組50班)体制で訪問



市職員が避難行動要支援者宅を訪問し、本人やケアマネジャーの了解を得ながら、計画作成を支援している様子

2 倉敷市の取り組みについて

●自主防災組織等への啓発、作成支援

■個別避難計画制度説明会等の実施

毎年7月下旬頃に、自主防災組織、コミュニティ協議会や地区社会福祉協議会等を対象とした説明会を実施しています。

説明会では、避難行動要支援者名簿の配付、個別避難計画制度及び作成方法を説明し、地域内の避難行動要支援者について、共通認識を持っていただいています。

また、地域の公民館や集会所での出前講座を通じて、実際に計画作成の事例演習を実施したり、訪問時の対応などを参加者とのやり取りを通して、具体的な対応方法を説明しています。

自主防災組織等を対象とした制度・作成方法説明会



出前講座での寸劇や事例演習を通じた計画作成説明会



2 倉敷市の取り組みについて

●令和7年度 個別避難計画の作成支援事業

■避難行動要支援者への戸別訪問による計画作成支援事業の目的

令和7年度に新たに避難行動要支援者名簿に登録された方を対象に、市職員が戸別訪問を実施し、「災害への備えについての普及啓発」及び「個別避難計画の作成支援」を行い、地域防災力の向上を図る。

■戸別訪問する避難行動要支援者について

- ・約900名(令和7年度に新規に名簿に搭載される方を想定。令和6年度実績に基づく。)

■対象職員への研修及び今後のスケジュールについて

6月中旬頃に「令和7年度 避難行動要支援者名簿」の最終版が作成されるため、7月中旬以降に、個別避難計画制度、防災に関する基礎講座を受講した市職員(全庁)が、戸別訪問を実施します。

- ・6月中旬:令和7年度 避難行動要支援者名簿の完成(保健福祉推進課)
- ・7月中旬～令和8年3月末:戸別訪問(防災啓発、個別避難計画作成支援)

2 倉敷市の取り組みについて

●個別避難計画作成者へのフォローアップ

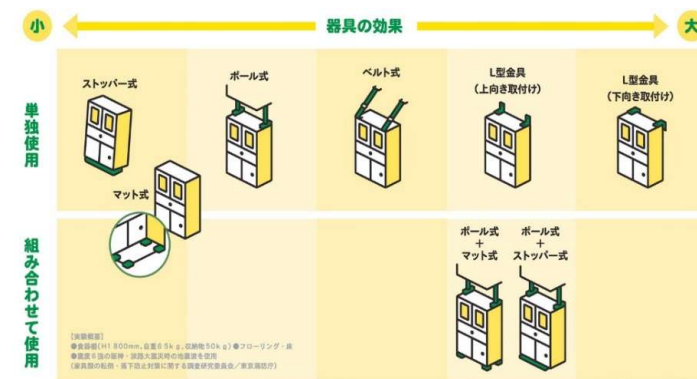
令和6年度までに個別避難計画を作成した方を対象に、倉敷市防災危機管理室職員で、再度、戸別訪問を実施し、サポーターの変更などの確認や家具の転倒防止事業について制度説明を行い申請についてもサポートするフォローアップ事業を令和7年度から新たに実施しています。

■戸別訪問する避難行動要支援者について

- ・まずは、津波浸水想定区域に在宅の方のうち計画作成済みまたは作成中の方 約400名
- ・順次、津波浸水想定区域外に対象を拡大予定

■実施時期

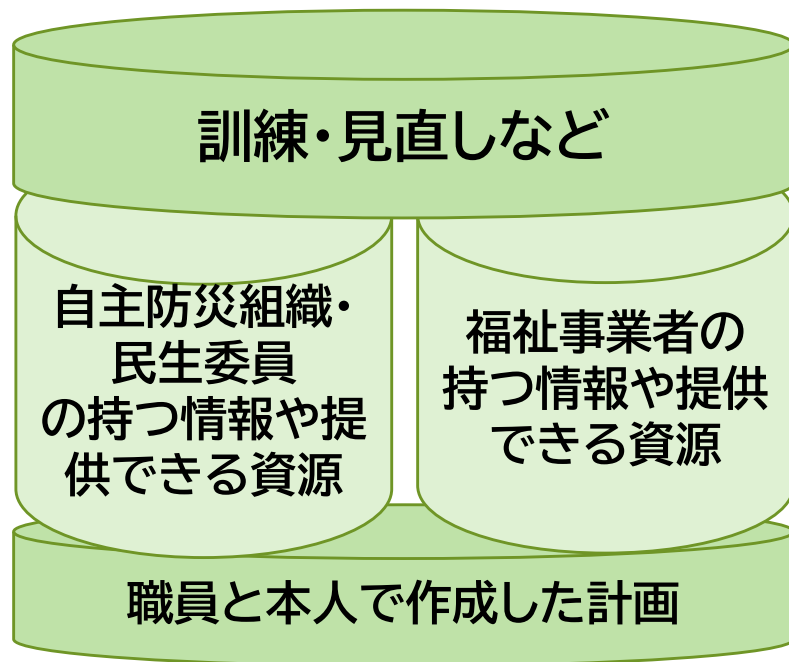
広報くらしき5月号に「倉敷市避難行動要支援者家具転倒防止器具取付事業(家具の転倒防止事業)概要」が掲載されて以降、順次訪問を行っています。



【表1】 家具転倒防止グッズで補強

2 倉敷市の取り組みについて

●令和6年度 戸別訪問で作成された計画の課題と今後



実効性

良かった点

- ・本人や家族が災害について考える大きなきっかけになった。
- ・福祉専門職や地域の人が苦手な部分も記入されているので作成しやすくなった。
- ・会議の日程調整がなくなったので作成しやすい。

悪かった点

- ・福祉事業者、自主防災組織などの地域によるブラッシュアップが無ければ、実効性の低い計画のままになってしまう。

3 個別避難計画作成業務委託について

●令和7年度の主な変更点

■計画更新(福祉事業者の持つ情報や提供できる資源による更新)

市職員の戸別訪問による計画について

・市職員が聞き取りながら一緒に作成した計画をベースに、避難サポーターを充実させることや、避難方法・場所について、**福祉専門職等の協力をいただきながら、より避難の実効性のある計画に更新**
例えば、対象者の身心の状態から、避難時に気を付けることや業務での安否確認の動きを記載など

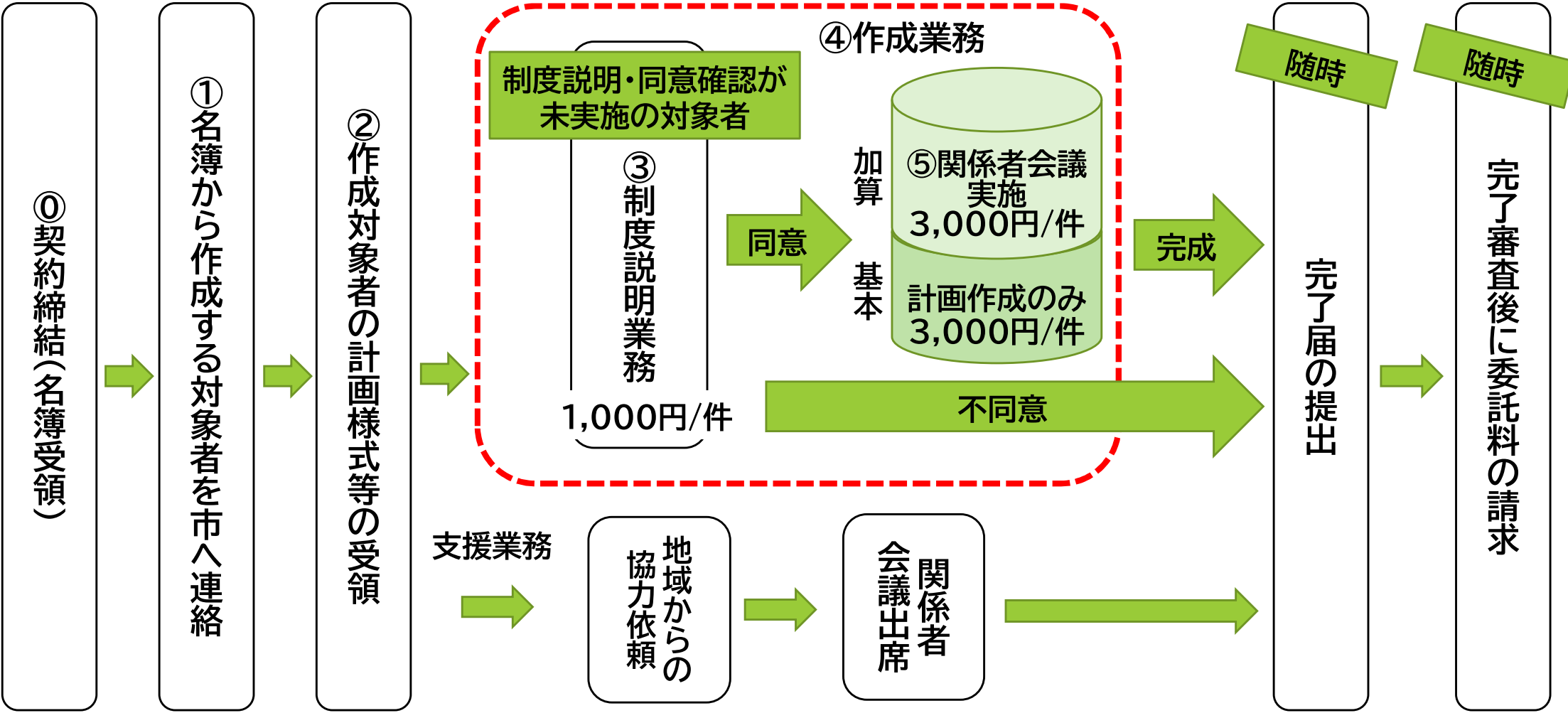
■業務委託先の拡大

- ・居宅介護支援事業所
- ・訪問看護事業所
- ・障がい福祉サービス等事業所



- ・居宅介護支援事業所
- ・訪問看護事業所
- ・障がい福祉サービス等事業所
- ・**小規模多機能型居宅介護事業所**
- ・**看護小規模多機能型居宅介護事業所**

令和7年度 個別避難計画作成業務委託のながれ



3 個別避難計画作成業務委託について

●ステップ①(ゼロ) 個別避難計画作成業務委託契約の締結

1 事業所として個別避難計画作成するかどうか検討

- ・個別避難計画作成しておいた方がよいと思われる利用者の有無について確認
- ・市(地域防災推進課)に、対象者が何名ぐらい名簿に掲載されているかどうかの確認

※契約を締結すると、名簿に掲載されているすべての対象者について、計画作成(更新)しなければならないことはなく、作成(更新)できる方から行ってください。

2 個別避難計画作成業務委託契約の締結(毎年度)

- ・計画作成の意思表示をした福祉事業所(法人等)と個別に契約

3 名簿等の受領(契約締結後、市からお渡しするもの)

- 避難行動要支援者名簿(見守り台帳は含めない)&計画の作成状況
- 個別避難計画様式&制度説明チラシ等
- 地域資源情報(自主防災組織の有無及び代表者連絡先、担当地区民生委員の連絡先)

3 個別避難計画作成業務委託について

●対象者リスト(避難行動要支援者名簿及び計画の作成状況等)

令和7年度倉敷市個別避難計画作成業務委託 対象者リスト（令和7年度倉敷市避難行動要支援者名簿）						事業所名							作成日		
						委託事業者ID							2025/3/18		
No	氏名（漢字）	氏名（カナ）	性別	生年月日	住所	方書	洪水（L1）	高潮（T0416）	津波	土砂災害	名簿掲載	制度説明・ 計画作成 同意の状況	計画作成 の状況		
1	倉敷 太郎	クラシキ タロウ	男	昭和25年4月1日	倉敷市***	***アパート ***号	0.5m～3.0m（1階が浸水）	被害想定なし	被害想定なし	急傾斜	R7新規掲載	同意確認済	作成済（市訪問）		
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															

本人の状況

・氏名、フリガナ

・性別、生年月日

・住所

災害リスク

・新規名簿

・制度説明

作成同意

・計画作成

本人の状況

- ・氏名、フリガナ
- ・性別、生年月日
- ・住所

災害リスク

・新規名簿掲載の有無

・制度説明・計画

作成同意の状況

・計画作成の状況

※本対象者リストについては2025年3月18日時点での介護・障がい福祉サービス利用情報をもとに作成しており、既に長期入院や施設入所している等、個別避難計画作成の対象者ではない方が含まれている可能性がありますので、ご注意ください。
※本対象者リストの災害リスクについては、避難行動要支援者名簿の住所をもとに調査しているため、現在お住まいの場所と異なる場合は、再度、災害リスクを調査しますので、市地域防災推進課(086-426-3131)までご連絡ください。

3 個別避難計画作成業務委託について

●ステップ① 対象者の選定

1 本人状況の確認・整理

- ・市から受領した名簿を用いて、本人の災害リスクや支援状況についての確認・整理を行う。

2 計画作成の優先順位を話し合う

- ・整理した情報を基に、誰から着手していくのかを検討する。
※避難支援の必要度緊急度、簡単な事例など、進め方は様々

3 本人や家族へのアプローチ方法を検討する

- ・(本人や家族から名簿掲載同意は得ているが、計画作成同意は得ていない状況)個別避難計画の説明を行い、理解を得たうえで、同意を得る(文書での同意が望ましいが、この時点では口頭でも可)※計画作成同意書のひな形はあります。

●ステップ② 計画様式等の受領

1 計画様式等の受領

- ・個別避難計画様式(個票:個人情報及び災害リスク情報を印字したもの)

3 個別避難計画作成業務委託について

●ステップ③ 制度説明及び計画作成同意

1 本人及び家族へ制度説明を行う

- ・対象者自宅を訪問し、計画作成の趣旨などについて、チラシを用いて説明を行います。
 - ・その際、当該地における災害リスク(様式裏面に記載)についても、説明を行ってください。
- ※計画検討の際の関係者や情報共有範囲については、本人の意向に沿うことが可能であることを伝えてください。

2 本人及び家族の同意を得る

- ・この時点では口頭同意で構いませんが、最終的には計画書様式への署名にて同意確認を行っていただきます。

3 本人や家族から避難の意向等を聞き取る

- ・避難についての本人の意向、関わりのある家族、親族、近所等があるのか、ペットの飼育状況等を聞き取ってください。
- ※指定緊急避難場所へはペットの同伴避難はできないため、ペットの処遇が避難の選択肢に大きく関係してくる(同行避難は可能:避難場所の屋外へのつなぎ止め等)。

3 個別避難計画作成業務委託について

●ステップ④ 計画作成(地域資源の確認)

- 1 本人または家族が記入した計画書を確認し、記入漏れの箇所や詳しく決めたほうが良い項目について、本人または家族の希望を聞き取り、わかる範囲で記入する。
- 2 民生委員や自主防災組織の方に個別避難計画への協力を依頼する
※基本的には、本人及び家族からの協力依頼をお願いする。
- 3 民生委員や自主防災組織の方から、避難支援者となり得る地域資源がないか、等を聞き取る

●ステップ⑤ 関係者会議の実施

- 1 本人及び家族へ制度説明を行う
※計画検討の際の関係者や情報共有範囲については、本人の意向に沿うことが可能であることを伝える。
- 2 本人及び家族の同意を得る
- 3 本人や家族から避難の意向等を聞き取る
・避難についての本人の意向、関わりのある家族、親族、近所等があるのか状況等を聞き取る

個別避難計画
基本様式

提出日	令和 年 月 日	作成区分	新規 ・ 更新	様式1 (Ver.2)
倉敷市避難行動要支援者 個別避難計画				
(あて先)倉敷市長 災害発生時に私が地域の支援者等と協力し安全に避難できるように「私の状況」や「私に必要な支援」を理解してもらうため、「私や私の家族が中心となり」本計画を作成しました。倉敷市長への提出をもって本計画に記載している「私についての情報」を関係機関や関係者と共有することに同意します。 また、本計画が「私や私の家族の安全を確保するものではないこと」を理解し、計画作成を契機として地域との絆をより深め、より安全なまちづくりを推進することを誓います。				
要支援者の署名	計画作成の同意 続柄(次女)			
要支援者氏名	倉敷 太郎	性別	男	生年月日 1935年1月22日
要支援種別	要介護認定	身体障害者手帳		
名簿登録住所	倉敷市西中新田640番地			
現在お住まいの場所	※上記の「名簿登録住所」と同じ場合は記入不要 倉敷市			
連絡先	090-1234-0000 続柄(長女・真備 節子)			
家族構成	☒ ひとり暮らし ☐ 同居家族(世帯主 1人) 歩行は歩行器で10分程度の歩行が可能ですが、足腰が変なしい。日中は居間で過ごし、夕食の準備は出来、お風呂の掃除は出来、△△デイサービス(倉敷市老松町〇〇-△△・086-425-0000)を利用している。			
本人の状況				
避難支援等実施者(以下、「避難サポーター」という。)名簿(第)連絡簿				
氏名	玉島 花子 (続柄:次女)	氏名	水島 守 (続柄:隣人)	
住所	倉敷市玉島阿賀町〇-〇-〇	住所	倉敷市西中新田〇〇〇	
連絡先	090-1234-****	連絡先	086-426-****	
支援の役割	☒ 避難の声かけ ☒ 移動の支援 ☒ その他(避難場所の提供)	支援の役割	☒ 避難の声かけ ☒ 移動の支援 ☐ その他()	
特記事項	土・日曜日の日中は在宅にいます 平日9時から18時まで	特記事項	おおむね日中は家にいます 平日9時から18時まで	
氏名	児島 寅子 (続柄:ママ)	氏名	〇〇 自主防衛隊 (続柄:町内会)	
住所	倉敷市老松町〇-〇-〇	住所	倉敷市西中新田△△△	
連絡先	086-425-****	連絡先	086-426-△△△△	
支援の役割	☒ 避難の声かけ ☐ 移動の支援 ☐ その他()	支援の役割	☒ 避難の声かけ ☒ 移動の支援 ☐ その他(役割調整)	
特記事項	〇〇居宅介護支援センター 月～金曜日の9時から18時まで	特記事項	△班 避難リーダーが対応する	
避難サポーター等の皆様へ、以下の内容についてご確認いただきませうお願いいたします。 ・避難支援は、ご自身や家族の安全を確保した上で、できる範囲で支援を行っていただくもので、個別避難計画の実行に関して法的な責任や義務を負うものではありません。 ・個別避難計画に記載された情報は平時から関係者と共有され、災害時には避難支援等の活動に活用される可能性があります。				

洪水・土砂災害等の避難のタイミング		避難するタイミング	
災害種別	起こりうる災害の危険性 ※ハザードマップで確認	避難先・避難方法	
洪水	浸水深0.5~3.0m (1階まで浸水)	☒ 在宅避難(2階以上へ垂直避難) ☒ 親族・知人宅(次女の家) ☐ 近隣の施設() ☐ 小学校などの公的な避難先() ☐ その他の避難先()	☐ 徒歩・車いす等 ☒ 車 ☐ タクシー等 時間 2.0 分
土砂災害	被害想定なし	☒ 在宅避難(2階以上へ垂直避難) ☒ 親族・知人宅(次女の家) ☐ 近隣の施設() ☐ 小学校などの公的な避難先() ☐ その他の避難先()	☐ 徒歩・車いす等 ☐ 車 ☐ タクシー等 時間 分
高層	被害想定なし	☐ 在宅避難() ☐ 親族・知人宅() ☐ 近隣の施設() ☐ 小学校などの公的な避難先() ☐ その他の避難先()	☐ 徒歩・車いす等 ☐ 車 ☐ タクシー等 時間 分
津波	浸水深0.5~3.0m (1階まで浸水)	☒ 在宅避難(2階以上へ垂直避難) ☒ 親族・知人宅(次女の家) ☐ 近隣の施設() ☐ 小学校などの公的な避難先(※小・中学校) ☐ その他の避難先()	☒ 徒歩・車いす等 ☐ 車 ☐ タクシー等 時間 2.0 分
地震	構造: ☒ 木造 ☐ 軽量鉄骨造 ☐ 鉄骨造 建築年: ☒ S56.5.31 以前 (旧耐震基準:地震により倒壊の恐れがある) ☐ S56.6.1 以降 (新耐震基準) 階数: ☐ 平屋(1階建て) ☒ 2階建て ☐ 3階建て以上 ※マンション・アパートの場合は、お住まいの階数をチェック	☒ 親族・知人宅(次女の家) ☐ 近隣の施設() ☒ 小学校などの公的な避難先(※小・中学校) ☐ その他の避難先(倉敷市の公園(一次避難)) 時間 分	
避難経路	【洪水】岡山地方気象台が倉敷市に大雨警報を発表した段階で、次女の玉島花子が車で自宅に迎え来て、次女宅へ避難する。玉島花子と〇〇自主防衛隊が自宅2階への垂直避難を支援する。玉島花子と〇〇自主防衛隊が自宅2階への垂直避難を支援する。玉島花子と〇〇自主防衛隊が自宅2階への垂直避難を支援する。		
注意事項	【地震】水島守と〇〇自主防衛隊が地震発生時に自宅に避難する。玉島花子と〇〇自主防衛隊が地震発生時に自宅に避難する。玉島花子と〇〇自主防衛隊が地震発生時に自宅に避難する。玉島花子と〇〇自主防衛隊が地震発生時に自宅に避難する。玉島花子と〇〇自主防衛隊が地震発生時に自宅に避難する。		
計画作成者(作成日:令和 年 月 日) 氏名 児島 寅子 (〇〇居宅介護支援センター) 〇〇地域 〇〇福祉専門職 住所 倉敷市老松町〇-〇-〇 〇〇-〇〇-〇〇 〇〇-〇〇-〇〇			

避難するタイミング

避難先・避難方法

避難経路
避難時の留意点

計画作成者

様式の中に出てくる用語説明

要支援種別

避難支援等が必要な理由(〇〇手帳を所持しているなど)を簡単に書いている。

浸水深

浸水害(洪水、高潮、津波等災害)が起きた際に浸水する深さの想定。

洪水、高潮、津波等災害ごとに異なる。

洪水、高潮災害には、計画規模(70～150年に一度の災害)と、想定最大規模(1,000年に一度の災害)の想定がある。

避難支援等実施者(避難サポーター)

避難行動要支援者に対して、個別避難計画に基づき、避難の声掛けなどの避難を支援等を実施する個人や組織のこと。家族、親戚、隣人、町内会・自主防災会の会員、医療・福祉関係者など。

支援する内容も人や時間帯によって異なる。

計画作成の同意、本人の状況

1 同意確認等(必須)

様式の上段に記載している、避難支援等実施者(以下「避難サポーター」という。)に情報を開示することと、計画を作成することが避難を保障するものではないことを必ず説明する。

2 現在お住いの場所

一つ上段の「名簿登録住所」と居所が一致している場合は記入不要。

3 連絡先

災害時などに、避難サポーターが安否確認や声掛けをするために必要。
本人が電話に出れない場合や対応に不安がある場合は、代理人の連絡先を記入する。

4 家族構成

家族を含めた自助力を把握するために必要。また、避難サポーターを考える場合に、近居の子どもや親族等についても聞いておくことが望ましい。

5 本人の状況

避難サポーターに本人の状況を共有すること、避難の実効性を高めるためにも詳細に書くことが望ましいが、一方で本人が他人に知られたくない場合もあるため、注意が必要。
記入例を参考に、主には歩行やトイレが自力で可能か、普段の生活状況等を聞き取り記入する。

避難支援等実施者(避難サポーター)

1 親族がいる場合

まずは、自助が基本となるので、同居・近居の親族の有無、その人たちができる支援内容を聞き取り記入する。親族等が避難サポーターになる場合も、本人へ同意確認を依頼すること。

2 親族以外の避難サポーター

近所で仲の良い人、支援してくれそうな人、福祉関係者で避難サポーターになってくれそうな人を聞き取る。訪問や電話で避難サポーターになることの承諾を得られたら記入する。

3 氏名・住所・連絡先等の記入

法定項目であるため、記入が必要。詳細がわからない場合、後日、再訪して聞き取る。

4 支援の役割

移動の支援だけが避難支援ではない。避難の声掛けも避難支援となる。また、大雨や台風など、予測できる災害の場合、事前に福祉事業所のショートステイを手配することも支援の一つ。

5 特記事項

本人や家族、避難サポーター同士での連携のためにも、記入例を参考にして、詳細を記入することが望ましい。

避難先・避難方法

1 洪水・土砂災害等の避難のタイミング

洪水・土砂災害は、基本はレベル3(高齢者等避難)での避難を勧める。事前に避難しておく場合や、「同居家族が避難するタイミングで避難する」場合などはその他に☑をいれ、具体的なタイミングを記載する。津波の浸水想定がある場合は、すぐ避難する必要があることを伝える。

2 起こりうる災害の危険性

あらかじめ対象者の住所で記載済み。住所と居所が異なる場合はハザードマップで確認し、修正の必要があれば、ボールペンで修正する。訂正印不要。

また、「被害想定なし」については「避難先」「避難方法」の記入は不要。

3 避難先

チェックリストから選択。小学校の体育館などの公的施設以外にも、親戚・知人宅、普段利用している福祉事業所なども避難先になることを念頭に、本人の希望を聞き取る。無理に自宅以外に避難することで、かえって症状が悪化する恐れがある場合などは、自宅2階への垂直避難も検討。

避難先がわからないという人には、ハザードマップで確認し、候補を提示する。ハザードマップで確認できる範囲で構わないので、避難先のハザードも確認するとよい。

避難先・避難方法

4 避難方法

避難方法に☑を入れる。時間は、分かれば記入する。

5 地震

「お住いの状況」について聞き取る。木造で建築年が旧耐震基準の場合、倒壊の恐れがあるため、耐震診断等を勧める。資料は別紙(木造住宅等の耐震診断補助事業)を参照のこと。

倒壊、近隣の火災に巻き込まれる恐れがない場合は、まずは広場に避難するが、その後の避難生活は不要の場合もある。

6 避難経路・注意事項

災害ごとの避難経路や、どの段階で、誰が、避難支援を行うかを決めておくことで、より実効性が高まるため、記入例を基に記入する。

避難経路は、実際に歩いて、倒壊しそうなブロック塀がないか、などを基に再度考えた方が実効性が高まることを説明する。

7 計画作成者

自主防災組織が聞き取り作成した場合は、作成した人を記載し、自主防災組織名も記載する。

計画作成の同意

8 署名及び計画書の共有

表面上段の要支援者の署名欄に署名をもらう。本人からの署名が難しい場合は、家族へ代筆を依頼する。

また、計画の情報共有することへの同意を得る。

提出日	令和 年 月 日	作成区分	新規 ・ 更新	様式 1 (Vol.3)
-----	-------------------	------	---------------	--------------

倉敷市避難行動要支援者 個別避難計画

記入例

(あて先)倉敷市長

災害発生時に私が地域の支援者等と協力し安全に避難できるように「私の状況」や「私に必要な支援」を理解してもらうため、「私や私の家族が中心となり」本計画を作成しました。倉敷市長への提出をもって本計画に記載している「私についての情報」を関係機関や関係者と共有することに同意します。

~~また、本計画が「私や私の家族の安全を保障するものではない」ことを理解し、計画作成を契機として地域との絆をより深め、互いの防災意識が向上するように努力します。~~

要支援者の署名		要支援者の代理者の署名	玉島 花子 続柄（次女）			
フリガナ 要支援者氏名	フリガナ 倉敷 太郎	性別	男	生年月日	1935年1月22日	
要支援種別	要介護認定	身体障害者手帳				